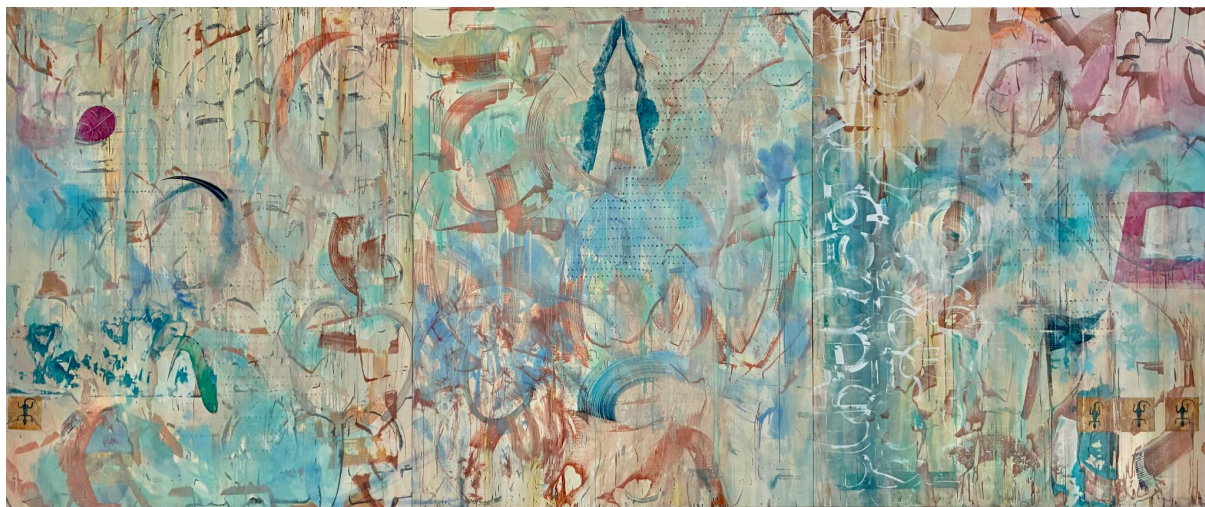


川村摩那「フラグメントーFragments of the Flag(s)ー」開催のお知らせ 新進作家・川村摩那による公立の文化芸術施設での初個展



川村摩那《フラグメント》2026年

公益財団法人宝塚市文化財団は、2026年9月12日（土）より、川村摩那による個展「フラグメントーFragments of the Flag(s)ー」を、株式会社メルコグループとの共催で開催いたします。本展は宝塚市立文化芸術センター（たからば）のメインギャラリーを会場とし、川村にとって、2025年度に群馬青年ビエンナーレで大賞を受賞して以来、初めての公立の文化芸術施設での個展となります。本展では、川村の過去の作品から最新作までをセレクトし、幅約6メートルにもなる大型作品も展示します。また、本展に際して制作する記録集を発行予定です。

展覧会について

詩や散文など文学テキストの断片を絵画的なイメージと重ね合わせて描く新進作家、川村摩那（かわむら・まな）の紹介をします。川村は兵庫県神戸市で生まれ育ち、早稲田大学を卒業後、京都芸術大学大学院で美術教育を受けました。その後も京都を制作拠点とし、自身で書いた詩や散文、日本の近代文学テキストの引用をもとに、文章の中に立ち現れる情景や文字そのものをモチーフにした絵画を制作しています。ただしそのテキストの文字は滲んでかすれ、判読することは容易ではありません。そのような画面は言葉では捉えきれない感覚や印象の揺らぎを視覚表現として浮かび上がらせます。

今回の個展タイトル「フラグメント」では、促音が入る点が特徴です。川村の作品に見られる「断片」的な要素の重なりは、鑑賞者に色々な情景やそれぞれの記憶を感覚的に想起させます。「断片」を意味する英語“fragment”は通常カタカナでは「フラグメント」と記されます。作家は、自分の作品の狙いがタイトルに挟まる「ッ」に存在し、その違和感にこそあると考えています。

発音するとよりはっきりと分かるこの違和感とクスッと笑いたくなるようなちょっとした滑稽さは、彼女の作品と今回の展覧会にとって重要なフックとなっています。

今回は、昨年の2025年度に群馬青年ビエンナーレで大賞を受賞して以降の、川村にとって初めての公立の文化芸術施設での個展です。

会場では川村の過去の作品から最新作までをセレクトし、幅約6メートルにもなる大型作品のほか、宝塚で制作した作品も展示し、川村の制作の広がりや展開を包括的に紹介します。

絵画を通して物語や意味を伝えることと、伝わらないことの狭間で、新しいものの語りを開く川村の作品にどうぞご注目ください。

川村摩那「フラッグメントーFragments of the Flag(s)ー」開催概要

会期：2026年9月12日（土）- 10月25日（日）（38日間）

会場：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー（〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64）

開場時間：10:00-18:00（入場は17:30まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

観覧料：無料

主催：宝塚市、公益財団法人宝塚市文化財団

共催：株式会社メルコグループ

後援：宝塚市教育委員会

見どころ

1 群馬青年ビエンナーレ2025大賞受賞後、初の公立の文化芸術施設個展

2 過去作から最新作まで網羅した包括的な展示構成

3 幅約6メートルの大型作品を含む新作群の公開

作家ステートメント

『フラッグメント』

私の絵画は、自身で書き綴った詩や散文、日本の文学作品などを手がかりに、文字そのものや言葉に関連する図像をモチーフとして制作しています。制作の初期段階では、キャンバスに自らのテキストを重ね書きし、乾ききらないうちに水を加えることで、文字の形が崩れていきます。すると、言葉として読めていたものが崩れ、痕跡のように画面に残ります。それが他のイメージと混ざり合いながら、ひとつの絵になっていきます。

言葉をモチーフにしているならなぜ絵画を制作しているのかと聞かれることがあるのですが、私は文字をそのまま読ませたいわけではありません。むしろ、意味を持ったものを一度壊すところから始めています。看板や標語のように、はっきりと意味が伝わるものを作りたいわけではないのです。

もともと文学を学んでいて、言葉で世界を描くことにも惹かれてきました。ただ、小説であっても詩であっても、言葉にされた時点でそれは完全に現実そのものではなく、どうしても少しずつずれていくものだと思います。読む人や状況によって意味が変わりゆく、不確定なものでもあります。そう考えたときに、現実をどのように捉え、それがどのように立ち上がるのかという問題に関心を持つようになりました。ただ、それは単に写實的に描くということではなく、世界の見え方そのものへの興味です。

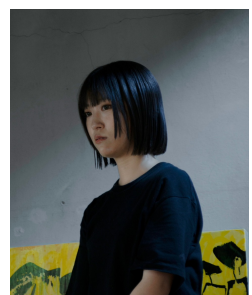
私の絵には、文字の痕跡のほかに、部屋のような空間や、動物のシルエットのようなもの、植物の模様のようなものなど、さまざまなイメージが現れます。それらは現実をそのまま再現したものではなく、あいまいな形を持った状態で存在しています。空間がはっきりと奥行きを持っているように見えるものもあれば、すべての要素が同じ距離に並んでいるように見えるものもあり、現実にはありえないような状態が同時に画面上に存在しています。こうした描き方は、写実とは真逆のように見えますが、むしろ現実から離れたフィクショナルな像が、私たちが見ている現実を別の角度から照らし出すのではないかと思います。

今回の展覧会のタイトル「フラッグメント」は、そうした断片的な状態を指しています。ひとつの意味にまとまる前の、不安定で変化し続ける状態です。本展では、現実をそのまま写し取るのではなく、私たちが世界をどのように受け取り、それがどのように像として立ち上がるのかという過程に目を向けています。言葉とイメージのあいだに生じる揺らぎを通して、現実が固定されたものではなく、常に生成され続けるものであることを示したいと考えています。

川村 摩那（かわむら まな）

1995年兵庫県生まれ。2018年 早稲田大学文学部 日本語日本文学コース 卒業。2023年 京都芸術大学 修士課程芸術研究科 美術工芸領域 油画専攻 修了。

主な展示：「群馬青年ビエンナーレ2025」群馬県立近代美術館（群馬）2025年、「ゴミと鉛筆とアート」UNKNOWN HARAJUKU（東京）2025年、「川村摩那・木津本麗 二人展：波とFrame」GALLERY ROOM・A（東京）2025年、「美術実践の日常風景」WHAT CAFE（東京）2024年、個展「そうして明くる日も明くる日も」haku kyoto（京都）2023年
受賞歴：2025年 群馬青年ビエンナーレ 大賞
パブリック・コレクション：群馬県立近代美術館



記録集

本展「フラグメントーFragments of the Flag(s)ー」の出品作品の記録集を発行予定です。

編集：HeHe／メルコグループ

編集協力：公益財団法人 宝塚市文化財団

デザイン：米山菜津子

写真：徳井蒼大

翻訳：ダリル・ウィー

発行元：株式会社メルコグループ

発売元：HeHe

発売日：2026年9月10日（予定）

価格：3,300円（税込）

関連イベント

展示に関連したイベントの開催を予定しております。

詳細が決定次第、宝塚市立文化芸術センターのウェブサイトにてお知らせいたします。

企画に関する問い合わせ先

宝塚市立文化芸術センター（たからば）

Email： tac@takarazuka-c.jp

広報に関する問い合わせ先

株式会社いろいろ（市川、熊野）

Email： press@iroiroiroiro.jp

広報用画像 https://drive.google.com/drive/folders/10_kJThq-y8m4ClgQ02LTlmsihd5sm8bf?usp=sharing